

一 関市総合計画前期基本計画(案)に対するご意見の概要及びご意見に対する考え方

パブリックコメント募集期間: 令和7年10月27日(月)から令和7年11月7日(金)まで

提出された意見数: 9件

番号	ご意見の内容(概要)	ご意見に対する考え方
1	<p>P19 こどもの学びの環境づくり 「入学者の確保に向けた学生寮などの環境整備」はとても良いと思います。一関にある中学・高校共通の寮というのは、親子共々安心安全な生活環境になると思われます。 ただ、最近ではクマ問題が心配されます。</p>	<p>・入学者の確保に向けた学生寮などの環境整備の具体的な取組については、本計画で掲げる取組の方向性に基づき、今後、個別の施策を検討してまいります。 ・クマ問題については、市内においてもクマによる人身被害が発生し、市民の生活を守るための対策を講じることは重要と捉えております。このことから、中目標「安全なまちの整備」の中に「クマをはじめとする野生動物による人身被害、生活への影響などへの対策」について追記しました。引き続き、市民生活への影響を最小限にできるよう対策を進めてまいります。</p>
2	<p>・計画書の評価指標がの目標値が漠然としていて、「増」などの抽象的な表現ではなく、具体的な数値目標を設定すべき。 ・人口減少や税収減が進む中で、一関市が衰退しないためには、市内外から人が集まり、収入を得られる魅力的なまちづくりが必要である。 ・学校が少ないまちには子どもが集まらず、住民も流出する。 ・北上製紙やNEC跡地を活用よりも、まずは一ノ関駅前や大船渡線沿線の商店街を再構築し、観光客や市民にとって魅力あるまちを再興することが優先である。 ・まちが再び活性化してから、工場跡地の活用を検討すればよい。</p>	<p>・評価指標の目標値については、適切な設定をするために精査を進めてきました。数値が確定しましたので、明記いたします。 ・市内外から人が集まる魅力的なまちづくりは重要な視点と考えており、大目標「ひとが集まり活力があふれるまち」に掲げる取組の方向性に基づき、具体的な施策を検討してまいります。</p>
3	<p>クマ対策について、市民の一番の関心事であり、市長もその対策を国に要請しているようだが、その項目立ても対策の記述もない。</p>	<p>クマ対策については、市内においてもクマによる人身被害が発生し、市民の生活を守るための対策を講じることは重要と捉えております。このことから、中目標「安全なまちの整備」の中に「クマをはじめとする野生動物による人身被害、生活への影響などへの対策」について追記しました。引き続き、市民生活への影響を最小限にできるよう対策を進めてまいります。</p>

番号	ご意見の内容(概要)	ご意見に対する考え方
4	<p>P23 情報通信ネットワークの利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙のデジタル化(マチイロアプリ導入) ・回覧板のLINE等によるデジタル化推進 ・清掃センターの受付をスマホネット受付にし、混雑緩和とQR決済導入 ・市民センターの施設利用料もQR決済対応を希望 ・JR大船渡線のSuica対応 <p>P33商業、観光業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の活性化と空き店舗対策が必要だが、コロナ以降はワンストップ型店舗やネット通販が主流になり、商店街利用者が減少している。趣味や自分の時間を重視する消費者が増加している。山間部では商店街が消滅しており、コンビニ会社との協定による「地域共生コンビニ」のような買い物難民対策が必要。特に旧東磐井地域(道の駅だいてう周辺)への配慮が不足している。 <ul style="list-style-type: none"> ・令和12年度の目標値が「増・維持・減少」など曖昧な表現であり、具体的な数値目標を設定してほしい。 <p>P11 ILCの実現を見据えたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実現しなかった場合の地域振興策も検討すべき <p>パブリックコメントの市民から意見を総合計画にできるだけ反映してほしい。住みやすい一関にしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの活用などの具体的な取組については、本計画で掲げる取組の方向性に基づき、今後、個別の施策を検討してまいります。 ・評価指標の目標値については、適切な設定をするために精査を進めてきました。数値が確定しましたので、明記いたします。 ・パブリックコメントでいただいたご意見は、取組の方向性に関するものは総合計画前期基本計画へ、具体的な取組に関するものは総合計画実施計画や個別計画への反映を検討することとしています。
5	<p>P15 こどもの健やかな成長</p> <p>「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」が全国平均、県平均より低い。県平均は全国平均より高い。とすると、これは一関市の問題か。「ひとりひとりが輝くまち」を掲げている本市にとって由々しきことと思う。</p> <p>P20 生涯学べる環境づくり</p> <p>図書館の貸出し件数・資料数とも県下トップ。これは誇らしいこと。やはり、旧市町村単位にそれぞれ図書館があることのメリットと思う。施設の老朽化対策も含めて、この現状を今後も維持できるよう支援していくことが大事。</p> <p>P28 地域づくり活動の充実</p> <p>地域づくり活動の担い手の高齢化は、高齢化が進んでいる現状ではどの地域でも抱えている問題だと思う。</p> <p>日頃思うことは、地域の活動に勤労世帯の若者の参加が少ないということ。働き方改革によって、勤務時間が減少しているかと思うが、勤務時間以外の活用に、自分のためだけでなく地域のためという考えを持ってほしいものだ。地域活動を次世代に引き継ぎたいと思っている者の願いでもあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の整備などの具体的な取組については、本計画で掲げる取組の方向性に基づき、今後、個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。 ・将来像に掲げる「ひとりひとりが輝く 挑戦しつづけるまち いちのせき」を目指し、「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」などの指標における目標値を達成できるよう、取組を進めてまいります。

番号	ご意見の内容(概要)	ご意見に対する考え方
6	<p>P4 協働のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千厩の最終処分場計画は住民への説明が不十分で、裁判にまで発展している状況である。 ・候補地の自治会に情報提供がなく、住民の困惑が続いている。 ・このことを現状に鑑みて欲しい。 <p>P5 魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一関の魅力が乏しいのは、個性や発信力の欠如による。 ・オーガニックビレッジ宣言など、特色ある政策を深掘りし、SNS等で若者の感性を活かして発信すべき。 ・オーガニックフェスタin岩手2025が農業祭の横の会場で開催されたが、市のブースは中身も人もやる気が感じられず残念であった。 ・外部イベント(バルーン、TGC)は住民性・文化性が薄く、経済効果も限定的。魅力創出の本質を見失っている。 ・魅力は自分で作って自分で発信するものである。 <p>P14 重点プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「若者・女性・外国人」という表現は偏っており、「老若男女」の視点が必要である。 ・外国人活躍の根拠が不明瞭で、ILCを意識しているなら尚更いらない。 ・ILCは日本学術会議でも反発があり、日本政府からも補助金が出る見込みも無く、実現性の可能性は低いと住民の間で話されている。先行きが不透明なものを重点プロジェクトにするのは税金の無駄である。ILCが頓挫した時の代替案もなく市民が不安に思うことは間違い無い。 ・東口イノベーション構想もILC中心で住民の理想と乖離した計画になると想像できる ・「住民と作り上げる東口イノベーション」に変え大々的な政策にして世に発信すれば一関の認知度や内外からの高感度アップにつながる。 <p>P31 自然と資源の保全</p> <p>必要なことに「住民の協力」を入れるべき。取り組むのは市民。住民に対する行政の姿勢が問われる。</p> <p>32ページ 農林業の振興</p> <p>オーガニックビレッジ宣言について、どう取り組んでどう発信してまちの魅力にする指針を示すべき。宣言して生かさなくてどうするのか。</p>	<p>ご意見に対する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一関の魅力の発信などの具体的な取組については、本計画で掲げる取組の方向性に基づき、今後、個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。 ・本計画は重点プロジェクトも含め、市民等27人で構成される一関市総合計画審議会において議論を重ね、現在の形となったものです。人口減少のスピードの抑制につながると期待される4つの進め方の方針を重点プロジェクトとして掲げ、総合計画に掲げる取組を推進してまいります。

番号	ご意見の内容(概要)	ご意見に対する考え方
7	<p>P8～9評価指標</p> <p>中目標 生涯学べる環境づくり ・市民センター以外の学習機会(出前講座など)も含めた参加状況の数値化が必要。 ・図書館の貸出冊数だけでなく蔵書数も指標に加えるべき。</p> <p>大目標 いきいくと自分らしく暮らせるまち ・脳血管疾患死亡率はいきいきと暮らせるまちの実施状況の目安としての指標に個別の疾患名の死亡率を用いることは望ましいと思わない。</p> <p>中目標 健康寿命の延伸 ・特定健診の受診率向上が課題である。特に40歳未満の被雇用者への対応が必要。 ・「週1回以上外出している後期高齢者の割合」を「住民主体の通いの場の開設数と参加率」とする。 ・住民主体の集会や通いの場が健康づくり・社会参加に効果的である。 ・「ゲートキーパー養成講座受講者数」よりも、相談できる箇所数や多様な社会参加の機会となり得る関係機関の設置数のほうが良い</p> <p>大目標 しごとの可能性が広がるまち ・指標が良い</p> <p>中目標 多様な働く場づくり、起業と事業承継によるしごとづくり、働くことにつながる環境づくり、働き続けられる環境づくり ・高齢者の就労についての表記があっても良い</p> <p>P11総合戦略 ・無関心層も含めた全世代対象の予防・健康づくりがフレイル対策といきがづくりに直結する。 ・住民全体の通いの場の拡充と参加者の増加により参加者自身が担い手となって社会参加へとつながる。</p> <p>P21健康寿命の延伸 ・目指す姿を「健康無関心層も含めた全世代の健康づくりに取り組み、次世代を含めたすべての人々の健やかな生活習慣形成に努め、いくつになっても元気でやりたいことに挑戦し自分らしく健やかな暮らしを送ることができるまち」としてはどうか。 ・評価指標の「週1回以上外出している後期高齢者の割合」を、「高齢者のフレイル予防や認知症予防のために行われる住民主体の通いの場の箇所数と参加人数」とする ・DX活用により歩行習慣などの見える化が進み、健康施策の精度向上に貢献しているという現状がある。</p> <p>P22多様な社会参加の推進 ・年齢や分野を限定しない居場所づくりと通いの場の拡充、健康リテラシーの醸成が必要である。</p> <p>P28地域づくり活動の充実 ・岩手県の「地域づくりによる介護予防推進事業」は、住民主体の通いの場を支援している。高齢者が要介護状態になっても役割を持って生活できる地域づくりが目的である。 ・通いの場を有効活用するための方策の検討が必要である。</p>	<p>・評価指標の目標値については、適切な設定をするために精査を進めてきました。数値が確定しましたので、明記いたします。</p> <p>・本計画は評価指標も含め、市民等27人で構成される一関市総合計画審議会において議論を重ね、現在の形となったものです。取組の体系に合わせ3階層の指標を設定し、本計画の進捗を管理してまいります。</p> <p>・通いの場の有効活用などの具体的な取組については、本計画で掲げる取組の方向性に基づき、今後、個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>

番号	ご意見の内容(概要)	ご意見に対する考え方
8	<p>P15ページこどもの健やかな成長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代から生活習慣病予防、がん罹患者再発予防、また、認知症含めた介護予防まで、歩く効果のエビデンスに基づいた活動を推進していただきたい。 ・フレイル予防は、民間活用で個人的取り組みを行っている人もいるが、意識が向いていない人や低所得など個人的取り組みのできない方も多い。地域で歩いても行ける顔見知りの会場でフレイル予防するシステム「週イチクラブ」をさらに推進していただきたい。「協働のしくみ実践される住みよい地域社会づくり」そのものの活動といえます。 65歳以上人口の1割が参加すると明らかに予防効果が現れ、介護保険の財政にも影響あるとされています。 ・団塊世代が2025年には全員後期高齢者に突入し「健康寿命の延伸」目標は喫緊の課題となります。市民皆で取り組んでいけるよう自らも働きかけていきます。 	<p>ご意見に対する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防などの具体的な取組については、本計画で掲げる取組の方向性に基づき、今後、個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。 ・次期総合計画は、市民、企業・事業者、行政の皆の計画としており、今後も市民、企業・事業者と一緒に取組を進めてまいります。

番号	ご意見の内容(概要)	ご意見に対する考え方
9	<p>P3～将来像を実現するためのまちづくりの考え方と役割連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結局何をしたいかが分からなくなっている。 ・地域の得意分野を見つけて育てるべきである。 <p>魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元主導のイベント支援に予算を使うべき。TGTeenは一日のイベントに1億円のふるさと納税をイベント企画会社に丸投げし、結果地元には経済的に何も残らなかった。 <p>健全かつ効率的な行財政運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「予算執行の分かりやすい情報開示」とあるが、TGCの予算執行の内訳も見当たらない。率先して情報開示して頂きたい。 <p>P13重点プロジェクト</p> <p>重点1「若者・女性・外国人」が輝けるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者支援は必要だが、女性ではなく「子育て家庭」に焦点をあてるべき。子育て家庭を重点化し、その祖父母世代含めて多世代で助け合える仕組みを構築するのが大事である。 ・外国人を特別視する必要はない。優先すべきは一関市の住民。 <p>重点2ILCの実現を見据えたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実現性が低く、国頼みの非現実的な計画であり、削除すべき。 ・地元産業や現実的な企業誘致に注力すべき。 <p>重点3駅東口向上跡地の利活用などによる一ノ関駅周辺のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市全体の総合計画であるのに、一部地域だけを特別視するのは不適切。 ・西磐井の中心の一関地域と東磐井の中心の千厩地域を拠点に各地域へ波及する仕組みが必要。 <p>重点4DX推進による快適で持続可能なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「DX」を理解している市民は少ないと思う。 ・行政のデジタル化と同時に、スマホやネット難民を助ける仕組みの構築が必須。 <p>パブリックコメントの集め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集期間が短く、周知も不十分。市民の声を聴く姿勢が感じられない。 ・千厩の最終処分場計画は周辺住民ですら決定後に知った。住民説明会で紛糾しても、行政側からは必要なプロセスは踏んだとの一点張りであり、実際に住民訴訟が起きている。 ・基本構想も、いつの間にか決まっており、基本計画を見直していることを知っている市民は少ない。改善して欲しい。 	<p>ご意見に対する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画は「将来像を実現するためのまちづくりの考え方と役割」や「重点プロジェクト」も含め、市民等27人で構成される一関市総合計画審議会において議論を重ね、現在の形となったものです。 ・認知度向上などの具体的な取組については、本計画で掲げる取組の方向性に基づき、今後、個別の施策を検討する際の参考とさせていただきます。 ・パブリックコメントについては、基本構想策定時と前期基本計画策定時に2回ずつ実施しており、市ホームページへの掲載、市公式LINEでの通知、新聞記事への掲載などで周知を行ってきたところです。今後、総合計画に掲げる取組を推進するにあたって、市民の意見を聴くことを重視し、周知方法等について検討してまいります。